

ちゃんと かわら版



恵庭小児童 ヤマメ稚魚放流 成長願う

にかけ、同校舎めた市内小学校4校で実施されました。

はじめに中村会長が「本日は晴天ではありませんが、とても気温が高いです。水分補給をして熱中症には十分気を付けてください」と児童らにあいさつ。次に、同会会員が放流のやり方を説明。「ヤマメは水温が低い川の上流に住んでいます。そのため熱に弱いので直接触らないようにしてください」と注意を呼びかけました。

その後、バケツに入ったヤマメを先生



らが網ですくい、児童に配布したカップに入れ、放流を開始。「頑張ってね」「元気でね」と声をかけながら、コップから勢いよく川に飛び出たヤマメに驚きつつ、笑顔でヤマメを見送りました。

放流後は会員が「ヤマメは川で一生を過ごす个体と海に下りサクラマス

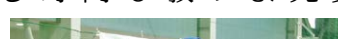
恵庭小の秋吉ひまりさん(10歳)は「川の水が冷たくて気持ちよかったし楽しかった。ヤマメが元気に大きく育ってくれたらうれしいです」と元気に答えてくれました。

(編集 佐々木)

(編集 佐々木)

北海道日本ハム
ファイターズ恵庭
後援会（黒田雅史
会長）主催、地元
企業23社協賛によ
る「日本ハムファ
イターズ野球教
室2025」が6
月22日、福住屋内
運動広場（福住町
1）で開かれまし
た。市内の野球少年団5
チームから参加した65人
が、元ファイターズ内野
手の市川卓コーチ（写真
上）と、元投手の吉田侑
樹コーチ（写真下）指導
のもと、楽しく汗を流し
ました。

この野球教室は、少年
野球の普及と技術向上を



ファイターズOBが伝える技術と心 恵庭で野球教室開催

したが、子どもたちはキャッチボールや投球フォーム、ベースランニング、バッティングなど、基本動作を中心に、上達のコツやポイントの指導を受けながら練習に励んでいました。ベースランニングでは市川コーチがベースの踏み方や走る際の注意点を指導。キャッチボールの前には、吉田コーチがボールの握り方を説明し、子どもたちは指の位置を何度も確認していました。

最後に吉田コーチは「今日教わった方法や考え方を継続し



なければ、技術は上達しません。また、きちんと睡眠をとり、しっかりと食事をとって体を作ること意識してください」と話し、市川コーチは「野球は失敗の多いスポーツです。その中で努力したことが経験となり、成功につながります。一つ一つを大事にしてプレーしてください」とアドバイスを送りました。

(編集 大谷)

恵庭市青少年国際交流受入事業の一環として、市の姉妹都市のニュージールランドのティマル市から派遣された16歳の高校生3人が6月22日に来恵。24日にはティマル市長のナイジェル・ボーウェン氏とともに恵庭市役所を訪れ、原田裕恵市長を表敬訪問しました。



恵庭とティマルの絆つなぐ 高校生3人が国際交流で来訪

で自己紹介を行い、日本で驚いたことについて「日本の学校では生徒は座って授業を受け、先生が板書をしたり動き回っています、ニューヨークでは生徒同士でディスカッションが多く、生徒の方が動くことが多いです」と文化の違いを話していまし

滞在中に体験したいことについて、ロブさんは「日本語を勉強したいです。着物を着て、写真も撮りたい」、ジョンストンさんは「日本の学校には多くのクラブ活動があるので、いろいろな体験し

てみたい」、「チャンさんは「空手初段なので、空手とバトミントンを楽しみたい」と笑顔で話していました。

原田市長は「短い期間ですが、たくさんの方達をつくり、思い出に残る有意義な時間にしてください」と述べました。

(編集 大谷)

